

# 大月町 事前復興 まちづくり かわら版

樫ノ浦

第2号

昨年度に引き続き、令和7年度  
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月10日(木) 9:00～11:00、樫ノ浦集会所にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。

## 【地区としての復興の方向性】

みんな助かって、おちついて…、それからどうする？

- ・景色が大事！
- ・健康な暮らし

・漁業を続ける、復興するのは難しそう？



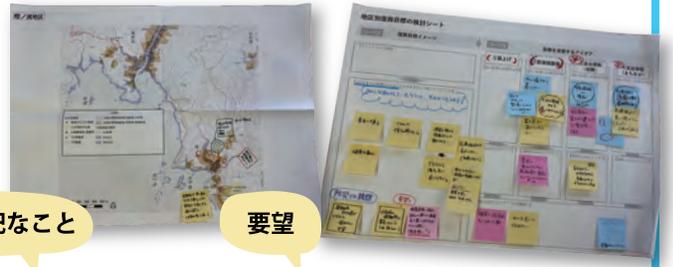
- ・できるなら漁ができるように、漁港も復興できたら良い
- ・今、漁に出ているのは6人(70歳以上?)くらいで、みんな兼業

防災で心配なこと

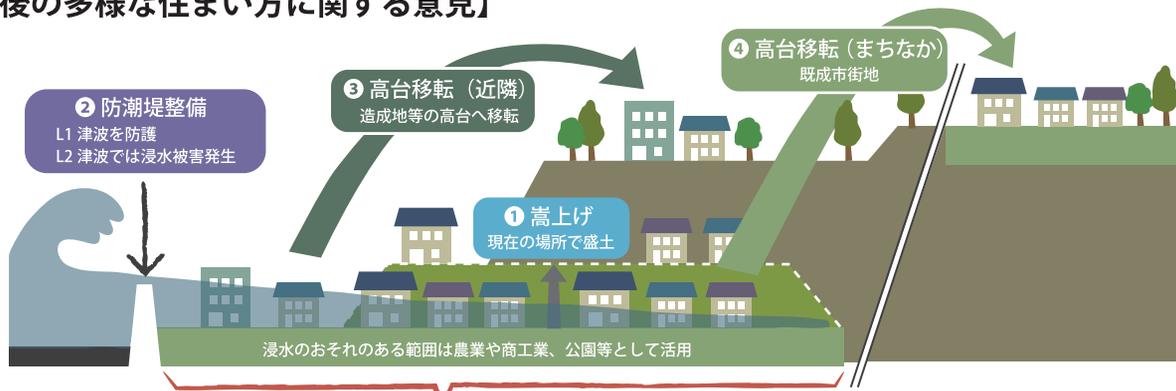
- ・避難所までの道が崩れて通れないか不安
- ・避難所に行くより自宅が良い
- ・トイレと水があるところに避難したい

要望

- ・小学校の避難所に備蓄したい！(水、服など)
- ・備蓄倉庫に、個人の服や備蓄品を置けるようにしてほしい！



## 【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討

※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

### 1 嵩上げ

- ・今の場所で暮らしたい
- ・できれば住み続けたい
- ・町がきちんと整備してくれるなら地区内が良い

これは無い!

- ・大きな津波が来たら尻にもならん
- ・景色が見えなくなったり、防潮堤で景色が台無しになるのはイヤ

### 3 高台移転(近隣)

- ・災害公営住宅に住む

・経済的に家をよう建てん

- ・高齢者が車に乗れなくなるのもふまえて、交通(バス)がちゃんとほしい

・まちの方が良いかも…、でもやっぱ今の近くがいい!

### 4 高台移転(まちなか)

- ・利便性のある弘見に住む選択肢もあり

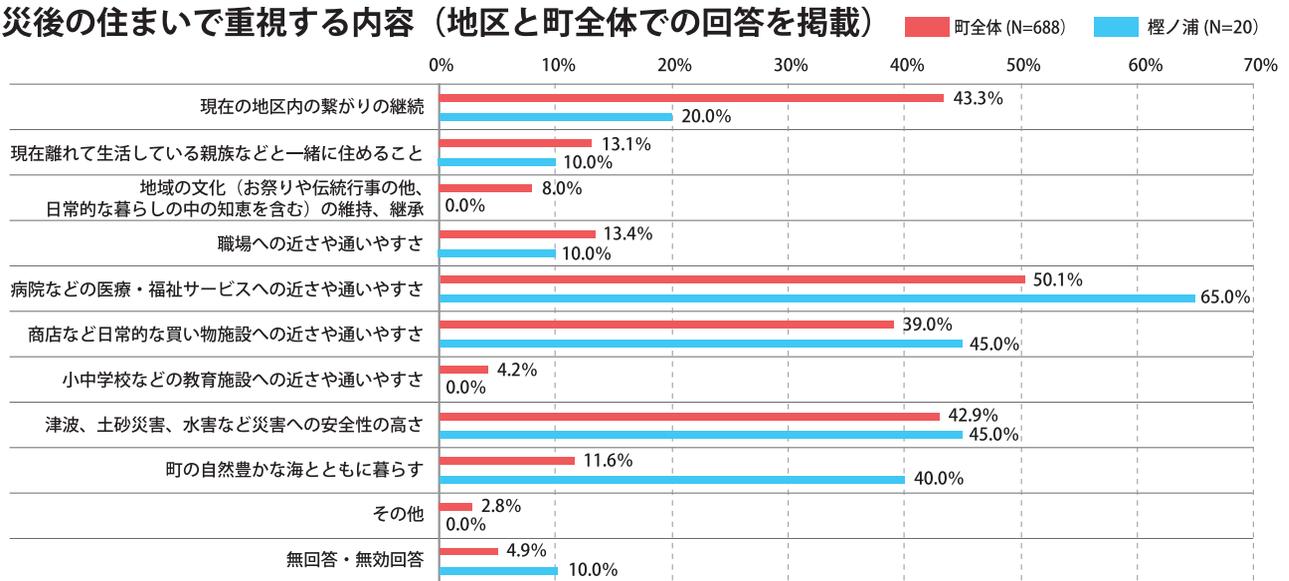
- ・利便性が良いところがいい(スーパー、ふれあいパークの近く)

- ・みんな近くに住みたい

# 大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

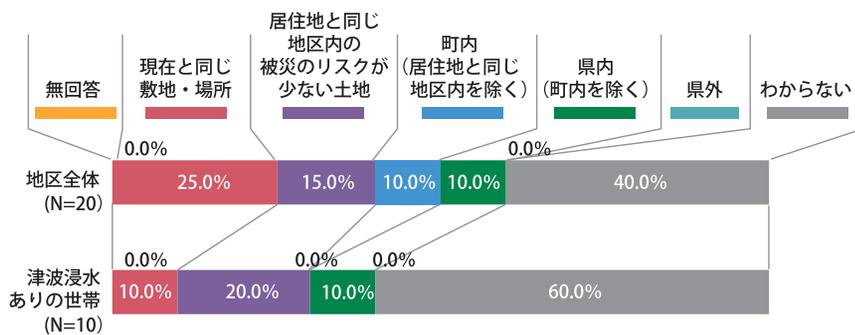
2025年8月25日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

## ●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



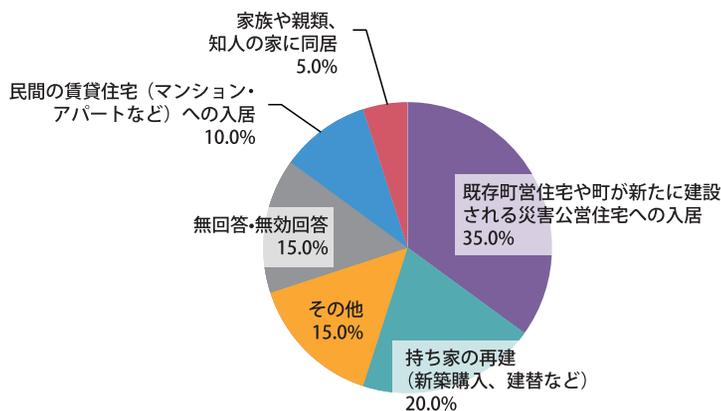
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が50.1%と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が43.3%となった。榎ノ浦地区では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が65.0%と最も多く、次いで「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」と「商店など日常的な買い物施設への近さや通いやすさ」が45.0%となった。

## ●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、榎ノ浦全体では「わからない」が40.0%、次いで「現在と同じ敷地・場所」が25.0%となっている。また、津波浸水の予想される世帯では「わからない」が60.0%、次に「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が20.0%となっており、全体的に被災後のイメージを持ちづらい様子が見える。

## ●復興の際の住まいの形態 (N=20)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が35.0%と最も高く、次いで「持ち家の再建」20.0%となっている。地区全体では生活を再建する際に望ましい住まいの場所として「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」や「現在と同じ敷地・場所」の割合が高いため、新たに公営住宅を建設する際には榎野地区内への建設が望まれることが予想される。